

完成間近の松田小学校 体育館棟 登り梁（カラマツ構造用集成材）

## CONTENTS

<b>森のニュース</b>	神奈川県の木材利用促進の取組み紹介	.....	P1
<b>森林づくり活動 グループの広場</b>	新橋の森を守る会（横浜市泉区）	.....	P3
<b>あの森を訪ねて</b>	魚付き林を見に 真鶴岬へ	.....	P5
<b>わが市わが町</b>	三浦市	.....	P7
<b>事務局便り</b>		.....	P8

# 神奈川県の木材利用促進の 取組み紹介



## 〇はじめに

昨今では地球温暖化防止への関心が高まり、「脱炭素社会」や「SDGs」という言葉が頻繁に使用されるようになりました。森林は二酸化炭素を吸収するとともに、木材は再生可能な資源であり、炭素を長期間貯蔵するほかエネルギー源として利用しても大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えない「カーボンニュートラル」など様々な特性を持っています。こうしたことから、木材の活用は循環型社会の実現に向け、より一層注目されています。

令和3年10月1日には「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が改正され、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されました。この改正により、公共建築物だけでなく民間建築物においても広く木材の利用を促進していくことになりました。また、10月8日を「木材利用促進の日」、10月を「木材利用促進月間」と定められました。

林野庁では、新たに身の回りのも



ウッド・チェンジ メインロゴマークの  
を木に変える「ウッド・チェンジ」  
を合言葉として掲げ、今まで以上に  
木材利用を推進することとしていま  
す。

## 〇県の取組み

県では、平成7年から行政と民間が一体となった「かながわ木づかい運動」を展開し、「かながわ森林・林材業活性化協議会」や「かながわ木づかい推進協議会」をはじめとした様々な団体と連携して県産木材の普及・啓発に向けた活動を行っています。

また、平成17年には「公共施設の木造・木質化等に関する指針」を策定し、公共施設における木材利用



今回の目玉である木製品

に関する取組み方針を明示するとともに、林野庁の交付金などを活用して、公共施設における木造化・内装木質化等、木材の利用を支援しているところだ。

さらに、平成31年4月に創設された、森林環境譲与税においても木製品のノベルティを作成・配布するなど工夫を凝らして様々な普及・PR活動も行っています。

### ○神奈川県庁新庁舎1階「展示コーナー」での県産木材のPR活動

かながわ木づかい推進協議会の活動の一環として、毎年10月に新庁舎1階にて県産木材の利用を促進するための展示を行っています。

木材を利用することがなぜ環境に良いのか、木材を使うメリットとはどのようなものなのかといった解説や、公共・民間建築物において木造化や内装木質化を行った事例紹介などを展示しています。

本年は、木材をより身近に感じてもらうため、これまでの展示に加え、県産木材を使った製品を新たに展示しました。

普段の生活で使える食器をはじめとして鉛筆やボールペン、ビジネスで活躍する名刺、積木やボードゲームといった玩具等と身近に取り入れやすい様々な木製品を展示しました。



木製品も注目されていました



展示は、県庁を訪れた一般の方や県職員等多くの方に関心をもって見ていただきました。また、県産木材を使用した製品カタログを多くの方に手に取っていただくなど、関心の高さが伺えました。

### ○終わりに

持続的な森林資源の循環利用には、川上から川下まで、「伐って、使って、植える」という生産から消費までの一連の取組みが不可欠です。

地球温暖化防止が世界的な課題となる中、適切な森林管理や木材利用の普及・促進がより一層重要となります。

県ではこうした取組みをさらに進めてまいりますので、これからもご理解ご協力をお願いいたします。

(神奈川県 緑政部森林再生課)



ひきよせ



積み木



パズル



## 〇はじめ

当会は2006年(平成18年2月)に横浜市泉区の相鉄いずみ野線弥生台駅北口から徒歩数分にある森(広さ約5ha)の自然環境保護を掲げて近隣住民約30人で「弥生台のせせらぎとホタルを守る会」として設立しました。発足当時は放置されていた森を、地権者様の承諾を得て、自然環境保護を前提に倒木整備や毎木調査などを行ってきました。

その頃は森を整備する道具も満足に揃わない中、熱意だけで実施してきましたが、翌年度に横浜市泉区の「泉区民の緑環境を守る補助金」を交付頂き活動に必要な物品を購入出来るようになりました。活動内容は徐々に拡大し、谷戸の草刈り、樹林地の倒木整備と散策のための山道作り(倒木を再利用した階段や土留めなど)と生き物調査などを主に行いました。

これらの活動を専門家の指導を受けることなく進めることが出来たのは、NPO法人よこはま里山研究所で研修を受けた前会長中村英次郎氏(故人)と自然の生態系と昆虫に詳しい専門家(横田光邦氏)の存在が

あったからと考えます。

2013年(平成25年)から始まった市民の森への移行準備期間に行政と協議を重ね、我々の意向に沿って自然環境保護に重きを置いた、「新橋市民の森」(面積2.6ha)として、2015年(平成27年)1月に開園致しました。

開園後、当団体名を「新橋の森を守る会」に変更し、更に2020年(令和2年)3月末に第二期拡張工事終了後は面積が4.3haに広がりましたが、拡張したエリアは貴重な自然が残るため立入り禁止の保護エリアとなっています。

## 〇活動内容

市民の森移行後は、横浜市(南部公園緑地事務所)との協働作業を行い、当会は、草刈り、樹林地の倒木整備、竹林の間伐と整備、山道の階段補修、谷戸地の池の補修など行っています。倒木は園路の階段に再利用し、間伐したクヌギやコナラは楢木にして椎茸栽培も行っています。

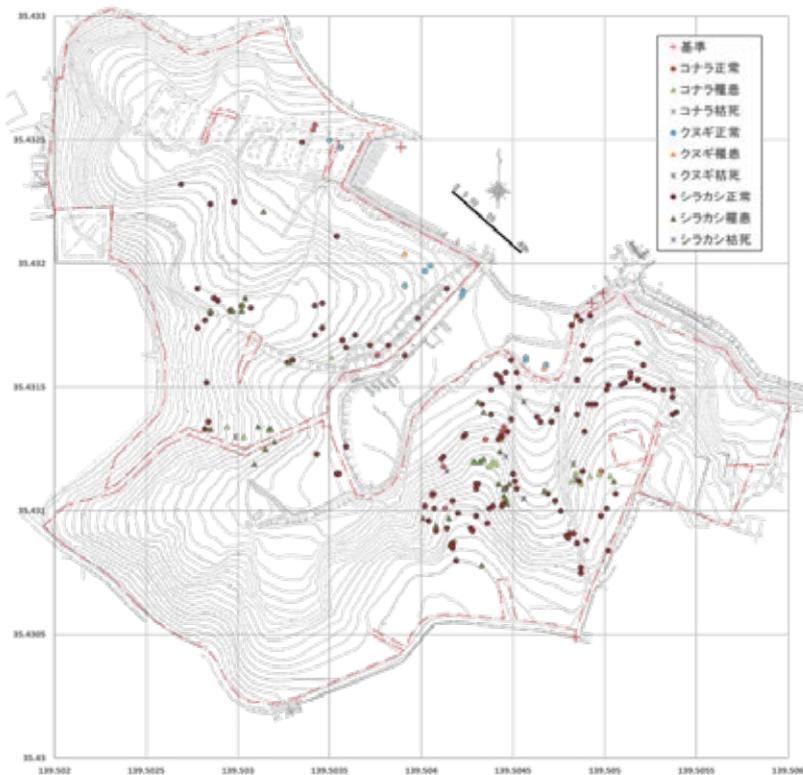
また、竹林で間伐した竹は、竹林を囲っているカノコ垣の補修に再利用し、園外には排出せず循環利用するようにしています。

一方、自主活動として近隣小学校の自然観察会(新型コロナ禍で昨年からは休止中)、会員及び近隣住民向け月例自然観察会、生き物調査、樹木銘板作り、水質調査(せせらぎのCOD値とpH値を測定)、園内の実生を使った植林などを実施しています。月例自然観察会で生き物や草木の知識並びに森の生態系を学びつつ、市民の森を案内するインタープリターの育成を目指しています。また、樹林地整備に詳しいメンバーにより、樹木の伐採や後処理方法、器具の使用方法などの講習を行ってもらい、安全面に配慮した作業を実施しています。



カノコ垣研修

※カノコ垣は、かのこ環境プロデュース株式会社様から技術指導を頂きました。



調査した市民の森の地図（ナラ枯れ分布図）

後、3回にわたり森での発生状況の調査を行いました。

調査方法は調査対象の樹木（コナラ、クヌギ、シラカシ）に識別番号を付け、スマートフォンのGPSアプリで緯度、経度、標高を記録、症状（正常、罹患：フラスがある、枯死）を記録する方法で行っています。今までに調査したナラ枯れ分布図と、樹種ごとの罹患状況のまとめは図とグラフの通りです。

調査結果から、クヌギとシラカシはナラ枯れの被害は小さく、特にクヌギの枯死率はゼロでした。一方コナラは7割以上が罹患（枯死含む）していました。

今後の取り組みとしては、ナラ枯れに強いクヌギの植林比率を増やすことと、ナラ枯れの被害の多かったコナラについては、昔の里山で行われていた萌芽更新をすることでより被害を少なくできるのでは、と考え長期計画で検討していく考えです。

その他市民の森の課題として、森の周囲に沿って流れる「せせらぎ」が、2か月間降雨量が少なくなると下流部で渇水してしまうことがあります。水棲生物のためにも森からの湧水やせせらぎの保水力を高める対策を考え、森とせせらぎが共存する市民の森を目指して活動していく所存です。（会長 藤本 洋）



山道階段補修作業

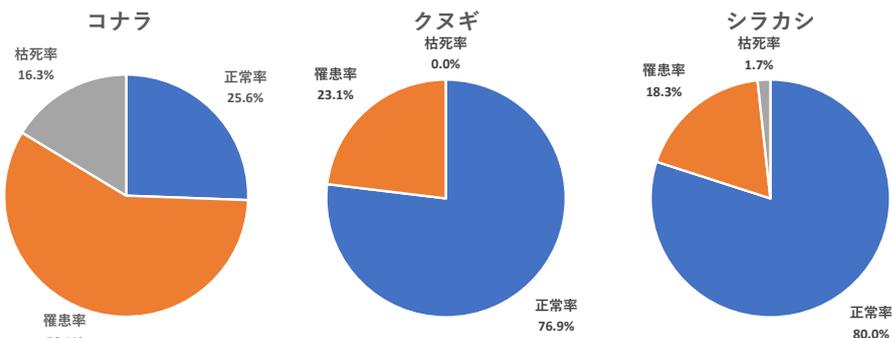
最近の会員数 30名（設立当時のメンバー大半が入れ替わり、常時活動している会員数15名）の構成に変化がみられ、女性会員の比率が高くなってきましたが、森の作業など積極的に行っており、男女差は感じられない活動をしています。

### ○ナラ枯れ調査

最近問題になっている「ナラ枯れ」は、当市民の森では2019年（平成31年）1月に発生を確認したこともあり、今年3月に開催された「ナラ枯れ被害対策交流研修会」に参加



倒木処理作業



ナラ枯れ 7月24日調査結果グラフ

## 第19回あの森を訪ねて

### 「魚付き林を見に 真鶴岬へ」



第19回「あの森を訪ねて」は、真鶴半島を訪ねることにした。

コースは、**真鶴駅—石工先祖碑—町役場—真鶴小学校—真鶴港—しとどの窟—海岸遊歩道—お林—中川—政記念館**。距離は、約6 kmである。歩けば素晴らしい景観と旧跡などがあるところ。

#### はじめに

真鶴岬は半島というには少々小さいが、今から約18万年前の箱根外輪山を構成する、白石溶岩や本小松溶岩、真鶴溶岩から成っている。

半島に広がる真鶴町は、石材業や漁業で成り立ち、「しとどの窟」そして「お林」の森などがある所。「お林」は美林50選の中でも県下一の美林と称される。

#### 岩専祖畑道（いわせんぞはたみち）

平成7年発行の「神奈川県古道50選」に載っている。小松石は、安山岩で空隙が少なく堅いのが特徴である。

石は、石の素質や多量に採れること、需要地が近い等に加え、運搬に便利なところが選ばれた。小松石の最盛期は、江戸城修築の時代で、西相模から伊豆半島の地が選ばれ、1606年から約30年間にわたって行われた。

御三家の水戸、尾張、紀伊のほか福岡藩等の参加もあった。この小松

石の搬出ルートは、どのような道筋で港まで運んだのか、辿ってみることにした。地形・地質は違っても、それなりの道があるのだろう。

#### ルートを歩く

真鶴駅を出てしばらく歩く。

町の中には、11箇所の道祖神が祀られている。疫病退散や豊漁の願いが込められているとのこと。

このうち、「石曳き」の道は3つの道祖神に沿って行くのだろう。



石工先祖の碑

細い道の先、立派な小松石の重厚な碑が建っている。平安末期の乱を避けて、岩村で石材業を始めた土屋格衛などの石工先祖の碑。

石工先祖の碑から、急な下りの小松石の階段が続いたところに、「大下の道祖神」と町役場。



大下の道祖神

そこから、さらに下ると平たいところの「丸山の道祖神」となる。道祖神からここまでは下り坂。大きなスーパーがある。

ここからが上り坂。真鶴小学校の裏手まで続く。これは大変だ。どうやって小松石を運んだらうか。「エンヤコリヤ サッサ！」と声を合わせて運んだのだろうか。

真鶴小学校の裏手からは小松石を採った山々が、かなたに見える。小学校から少し行ったところに「東の道祖神」。ならんだ地蔵が人々の幸せを祈っているのだろうか。

ここからは下り道。細い道を行くと、「自泉院」の墓地の向こうに港が見えてくる。



港へ下る細い道

ここまでくれば、あと一息である。そして、港から江戸に向かって船出したのだろう。上りと下り、大変だっただろう。

県の歴史博物館で開催された「神奈川の歴史を彩った石の文化」展にも、「石曳図」は少ない。

#### しとどの窟と貴船神社

港の一角に「しとどの窟」がある。1180年の石橋山の戦いに敗れた源頼朝が隠れて、岩海岸から房州に逃れたところ。



しとどの窟

江戸時代の「新編相模風土紀行」には、窟の様子が描かれているが、今は小さい。

その後の、関東大震災の隆起や昭和17年の追浜飛行場の工事用石に利用されたとのこと。削り取られたようだ。前のバス道路などは、後からつくられたもの。

貴船神社はほどなく。108段の小松石の階段を上ると拝殿。

7月の27・28日の海に乗り出す祭礼は、国の重要無形民族文化財に指定され、漁業や石材回漕を生業とする人達の守り神となっている。

### 真鶴遊歩道

神社を出ると海岸遊歩道となっている。遊歩道からは、先ほどの岬から、小田原、二宮、平塚と続く海岸線の町並みが美しい。遊歩道の壁面は、小松石の見事なもの。まさに小



小松石の壁が続く遊歩道

松石の産地という感じである。

町の特徴である漁業は、明治43年の「鰺の定置編」を設置したことなどにより、これが近傍の浜に広がった。今でも、アジ、サバ、カマス、ワラサ等がとれる。



岩漁港の漁船の往来

港から、10kmほど先にいくと1000mの深い海が広がっているとのこと。琴ヶ浜に近付くと、目の

前に鬱蒼たる樹林が見えてくる。マツの木がクスノキ等の梢を抜けだして、空に飛び出している。

### 帝室御料林

17世紀中ごろ、小田原藩の支配下のもと、萱原だった岬に、3カ年で松苗15万本の植樹を実施した。その後の植林等も含め33haを御留山（お林）として、立ち入りを禁止した。明治維新後には、帝室御料林となり、戦後の1961年には国有林となった。

町は国有林以外の岬の開発を見込んでいたこともあり、1951年に633万円余で、町有林として購入した。

1954年には、県立公園に指定されるなど、公園の一体整備がなされることにつながっていった。

### 魚付き林について

県下で唯一の魚付き林、まさに岬の先端にある林である。

古来より、森林の働きとして、水源涵養の「水持ち山」、飛砂防止の「砂止め山」、魚を寄せる「魚付き林」などがある。



魚つき保安林の標柱

魚付き林は、流れ出すミネラル等によるプランクトンの増殖、樹木による陰影効果、それに水質を清浄にする等の効果が考えられる。

これらが、定置網の漁業にも影響を与えているのだろう。

### 魚付き林に入る

琴ヶ浜から緩い上り道。お林に入ったようだ。1mはあろうかという太い幹のクスノキやマツが見えて

くる。途中に、佐佐木信綱の歌碑がある。「真鶴の林しづかに海の色さやけき見つつわが心清し」。圧倒的なくらいの樹林と青い海を詠んだのだろう。

岬入口から、小さなお堂の脇を通り灯明山へのぼる。

いたるところにクスノキやマツ、スダジイ、タブノキ等の木々が繁り、混然一体となり、鬱蒼たる森林となっている。

クスノキは圧倒的な大きさである。クスノキもマツも、かつて植林されたもの。



高さを競うように並び立つマツ

クスノキは、マツのように樹齢350年を超えるものはないが、お林の中で大成を占めている。

林内はシロダモ、トベラ、イヌビワ、アオキなどのほか草本植物など、多彩な種類からなっている。

長い年月を生き延びてきた、畏敬の念を感じざるを得ない。

一旦道路に出て、駐車場からケープ真鶴をめざす。三ツ石海岸を望む。小松石の彫り物などを見て暫く休み。お林遊歩道を行くと、こちらにもスダジイやクスノキや高い樹高のマツの立ちならび、途中に小鳥の家などがあるが、鳥は見えない。

下り坂になると、ほどなく、真鶴のアトリエに移り住んだ、中川一政美術館となる。

真鶴駅へは、バスは14時30分過ぎと、15時30分過ぎがある。

(2021年10月 瀧澤)

# わが市わが町 三浦市



三浦市の総面積は3,205haで、神奈川県南東部に位置し、三方を海に囲まれ、西岸は相模湾、東岸は東京湾（浦賀水道）、南岸は太平洋に面し、南端部に城ヶ島を位置し、自然豊かな地域となっており、一年を通して観光客が訪れます。特に三崎港近辺のマグロ料理店はメディアでも多く取り上げられ、とても活気があります。

農業も盛んで、大根、キャベツ、スイカ等が主になりますが、大根において出荷量は日本一を誇っています。

本市は過去に林業を行っていたようですが、森林経営体は存在せず、資料の記載もありません。

本市森林計画は「人・まち・自然」の三大資源が持つ価値を活かし、住

み心地のよい、潤いと安らぎを感じるまちづくりの重要な構成要素となるよう、森林整備計画に努めています。

現況森林面積は588haで、森林整備計画対象民有林は503haで、そのうちマツを主体とした人工林面積は9haであり、各地に分散しています。人工林率は2%で県平均よりかなり低い値です。

しかし、森林の持つ水源かん養、土砂の流出・崩落防止及び生活環境の保全等の公益機能の重要性が高まってきていることから、本市においても人工林の間伐の推進及び住宅地周辺森林の整備を積極的に実施すると考えます。

本市の代表的な森林である「小網代の森」は面積約70haで市内最大

の斜面林です。平成17年には近郊緑地保全区指定され、観光・学習の場として活用されています。この森は関東、東海地方で唯一、集水城の森林、河川、干潟が開発されずに連続して残されている自然環境といわれています。

街路樹においては「河津桜」が2月には満開になり、直近を通過する鉄道と相まって、多くの観光客が訪れ、話題のスポットとなっています。



市道沿いに満開の「河津桜」

その他の森林は、市内各所130箇所、計約20haの保安林が市街地に隣接しており、市民の憩いの場となるとともに自然と共生する都市を目指しております。

本市はこのような貴重な森林財産を絶やさぬよう、ボランティアグループの方々と協力しながら環境保全に努めるものです。

（三浦市 経済部農産課）



南西方面から見た「小網代の森」





## 事務局便り INFORMATION

### 令和3年度第2回理事会を開催しました。

1 日時 令和3年11月25日(木) 14時～

2 場所 厚木商工会議所 会議室

3 議事

(1) 令和3年度神奈川県森林協会事業及び収支経過状況について

(2) 令和4年度神奈川県森林協会会費割賦(案)について

議案は承認されました。

### 木造3階建てで建築中の松田町立松田小学校の現場を見学しました。

令和3年11月11日(木)に、協会会員を対象に木造小学校建て方視察研修会を松田町立松田小学校で開催しました。松田小学校は公立の学校では全国で3例目、県下では初となる準耐火構造の木造3階建ての小学校として、年度末に完成の予定です。

松田町教育課、施工者の皆様のご協力をいただき、「松田と共に育つ 新しい学びの樹」をコンセプトとした、木造建築設計・工法、木材調達等についての詳細説明、木造躯体工事の現場見学を行いました。

これからの木造校舎建築の標準モデルとなるよう、構造は、最も標準的な在来軸組工法を基本とし、建築基準法による1時間準耐火基準で、メンブレン防火と燃えしろ設計を組み合わせています。

使用する木材は、適材適所に、構造用集成材として国産カラマツ、欧州アカマツ、構造用製材として、国産ヒノキ、米マツを使い分け、松田町産材も内装に使用します。

建築現場では、工事が進み、太い梁や柱等の構造材は石こうボード等にかくれているところもありましたが、木の温かみを感じられる明るい教室や廊下ができあがりつつあり、学校へ通う子どもたちの笑顔が目に見えようでした。また、準耐火構造にするための設

計上の工夫や、施工に手間がかかる等、木造ならではの現場の苦勞も教えていただきました。

これから学校の建て替え等を計画されている市町村、地域材供給の関係者にとって、とても参考となる研修会となりました。

(研修会の写真は次ページ)

### ナラ枯れによって枯れたコナラの製材試験

ナラ枯れは神奈川県では2017年に初めて箱根町湯本や三浦市小網代等で被害が確認されて以降、被害は増え続け、令和2年度には、ほぼ全域に拡大しました。

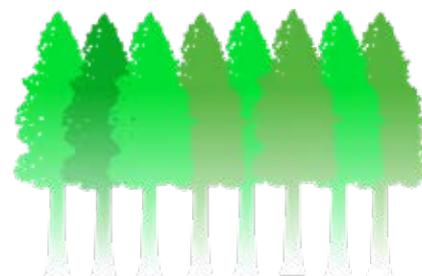
森林協会では、県と共催で市町村担当者、林業・造園業者を対象としたナラ枯れ対策研修会を開催したり、森林づくり活動グループ・団体向けに情報提供等を行っています。

今年度も令和3年11月2日にナラ枯れ対策研修会を県央地域で実施しましたが、その際に伐採したコナラについて、木材として活用できないか、厚木市森林組合の協力を得て、被害材の製材を試みました。

(製材の様子写真は次ページ)

製材した結果、わかったこと

- ・コナラ末口 44cm L=200cm(樹高4m~6m)から 幅7cm厚さ2cm長さ200cmの板を32枚造材  
このうち木の天板として使用可能な板は15枚(元丸太との材積比 16%)
- ・カシノナガキクイムシは地際から高さ2~3m程度までの幹に集中して穿入するので、高さ4mを越えた部分の2番玉、3番玉では穿孔が少なく、板として使える部分が多いのではと考えていたが、予想以上に上部も被害を受けていた。
- ・穿孔がみられない良材は幹の中心部(心材)のわずかな部分だけで、表面に近い辺材部だけでなく、かなり深くまで穿孔されていた。



## 木造小学校建て方視察研修



設計、施工に関する説明



校舎棟全景 外壁の一部に杉材を使用



普通教室 中央部の梁は9mスパンを支える



昇降口壁面 町産材ヒノキを使用し生徒たちが製作



普通教室 通し柱は240mm 燃えしろにより現し



公共建築関係の部署より90名近くが参加

## ナラ枯れ被害木の製材



4mで搬入した元玉（根本）を2mに



帯鋸で27mmの板材に製材



白みがかった辺材部には穿孔の跡がみられる



穿孔なし（上）とあり（下）をプレーナー掛け



製材したそばから幼虫がでてくる



板材を70mm幅のラミナに製材

広報誌 緑の斜面 VOL. 75 / 令和3年11月30日発行

編集・発行 神奈川県森林協会  
 住所 厚木市中町2丁目13番14号 サンシャインビル604  
 電話・FAX (046) 240-0500



HOME PAGE  
<https://k-cr.com/>